

◆実践報告①〔公設書店・八戸ブックセンターの取り組みについて〕への質問◆

質問 1 八戸市の事業として公設書店を開設した英断に賞賛を送ります。地方自治財政上厳しい現状があり、地域の書店や既にあった市立図書館とどう整理し見通しを持つことができたのか？

回答 八戸ブックセンターの開設については、「本」を活用したまちづくりを基本とし、図書館のように本を「共有」して読むことだけではなく、「私有」して読む体験も重要であるという考えのもと、書店の機能を持ち合わせた施設にすることで検討を進めました。

図書館については、「本のまち八戸」を推進するという同じ目的を持ち、連携を図りながら事業を進めることでスタートしています。

書店機能の部分に関しては、地方都市の民間書店では経営上などの観点から扱いにくい本をブックセンターで取り扱うことにより、民間書店を補完する役割を持たせています。これらの内容を含め、市内全書店に対してヒアリングを実施し計画を進めた経緯があります。また、民間書店との連携として、ブックセンターの一部業務（本の仕入や返品、在庫管理、レジ業務等）を市内の一部書店で組織する有限責任事業組合（ＬＬＰ）に業務委託しています。